

KYOTO Campus Master Plan 2015 Ver.1

SUMMARY

京都キャンパスマスタープラン2015 Ver.1 / 概要版

立命館大学のキャンパス創造

キャンパスは街である

「学生・教職員」が参画する街づくりを進めます

立命館大学では、教育改革とキャンパス整備を総合的に進める「キャンパス創造」に取り組んでおり、学生・教職員の教学・研究・学生生活を支える良好なキャンパス環境・空間の具体化に向けて、キャンパスで生活する学生・教職員が参画する機会を設けながらキャンパスマスタープランを策定し、その具体化に向けた検討を進めています。

Beyond Borders

- 1 | 京都・衣笠キャンパス周辺の歴史・文化的
コンテクストを踏まえたキャンパス計画
- 2 | キャンパスモールとグリーンプロムナードの
主軸ときぬかけの路を活かした基本骨格
- 3 | 個の集合体としての力を発揮し、
地域にも開かれたキャンパスづくり

フレームワークプラン

線的・点的整備課題

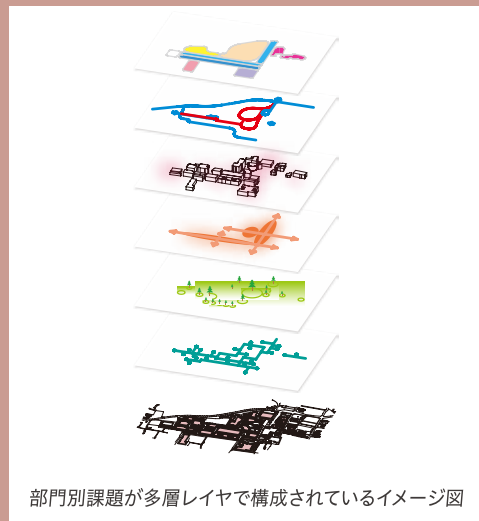
2016～2045年までの中・長期的な検討課題。

キャンパスマスタープラン(CMP)にて方針を示し、15～30年スパンで検討を継続。

1. ゾーニング・建物配置
2. 交通
3. パブリックスペース
4. キャンパスデザイン
5. 緑地
6. 安全・安心
7. 環境配慮

フレームワークプラン検討の際に
踏まえるべき事項・前提条件

- ▶ アカデミックプラン
- ▶ キャンパスにおける法的条件
- ▶ キャンパスの現状把握
- ▶ ニーズの把握
- ▶ 評価基準の設定



部門別課題が多層レイヤで構成されているイメージ図

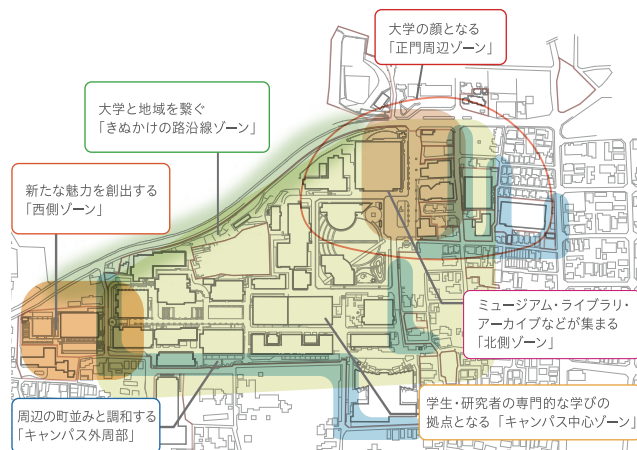
FRAME
WORK
PLAN

1. ゾーニング・建物配置

良好なキャンパス環境を長期的に維持するためには、法的な条件や建築条件を踏まえ、持続可能なゾーニング・建物配置を検討する必要がある。また、既存の学部・研究科のまとまりや機能配置を活かして、全体最適を目指す。

考え方

- キャンパスの特性を活かしたゾーニング計画
- 屋外のパブリックスペースによるキャンパス全体の緩やかな連繋
- 建物ボリュームの再配置を考慮した土地の有効活用
- 持続可能なキャンパスの実現に向けた建物配置計画



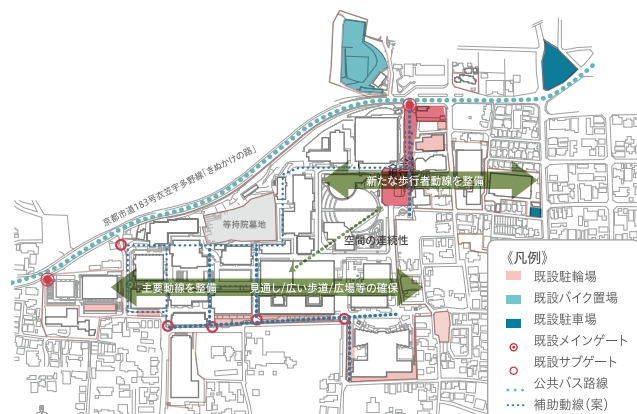
FRAME
WORK
PLAN

2. 交通

既存のキャンパス構造や公共交通を活かしながら、安全・安心で衣笠らしい快適なキャンパスとして検討を進めることが大切である。また、地域や環境にやさしい交通システムについても考慮が必要となる。

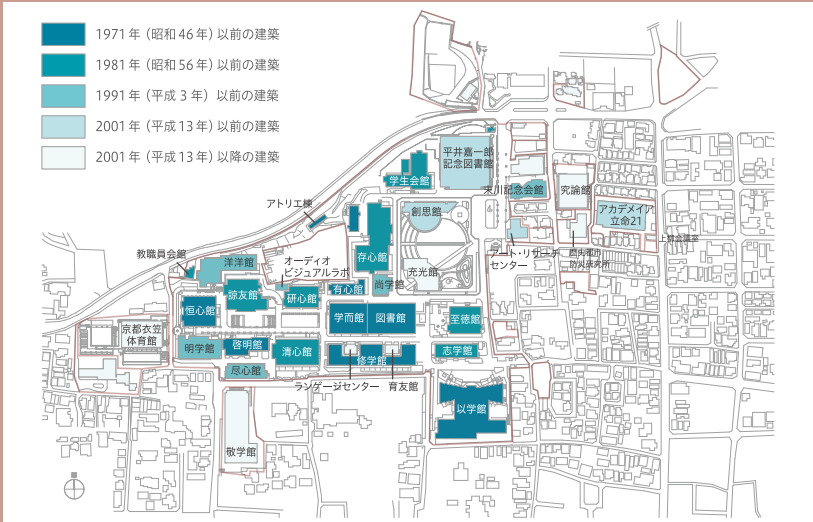
考え方

- キャンパスゲートは、ゲートごとの位置づけに応じた空間づくりを検討する。
- キャンパスモール周辺は、歩行者が安全・安心に移動できる動線を整備する。
- キャンパス外周部や建物間の細い道路は、補助動線として位置づけ整備する。
- 車両の主要なアクセス動線は、キャンパス北側「きぬかけの路」からとする。
- 歩行者、自転車・バイク利用者の主要なアクセス動線は、キャンパス東側、南側からとし、利便性に配慮するとともに、地域住居環境への配慮を行う。



衣笠キャンパスの現状と課題

- 計画的な土地利用、上限に達しつつある建ぺい率緩和への対応
- 高さ 15m以下の風致地区規制への対応
- 風致地区や建造物修景地区、眺望景観保全地域指定による、周辺環境との調和、景観への配慮、緑の保全
- 施設・資産の有効活用、機能の再配置
- 施設の老朽化への対応
- キャンパス人口の増減
- 教学・研究・活動環境の充実
- 3キャンパス体制を踏まえた衣笠キャンパスの魅力の発信
- キャンパスアメニティの向上

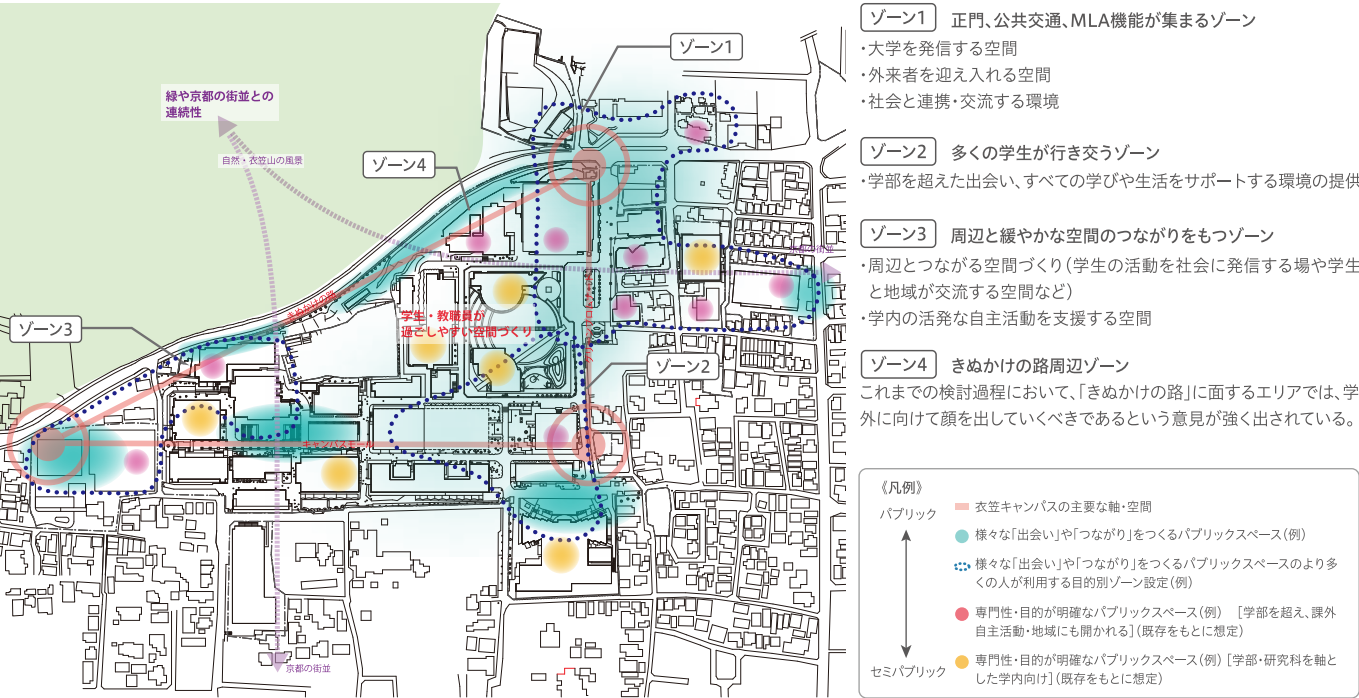


FRAMEWORK PLAN 3. パブリックスペース

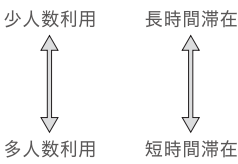
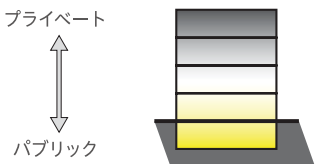
既存施設や環境を最大限に活かし、多くの人々が利用することを前提とした、目的別に様々な「出会い」や「つながり」を創出し、衣笠らしい心地よい空間づくりを目指す。

考え方

- キャンパスの骨格を活かしながら様々な「出会い」や「つながり」をつくる



- 空間的な序列化を図る



- 学びや活動・交流、衣笠らしさが見える空間づくり



見える化のイメージ



出合いのイメージ



眺望のイメージ

アクションプラン

個別整備課題

2016～2020年までの短期重点検討課題。
アカデミックプランの検討と関係のある課題。

衣笠キャンパス

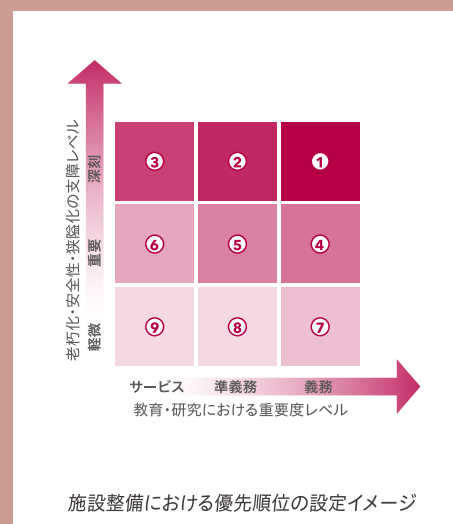
- ・政策科学部大阪いばらきキャンパス展開後の洋洋館の活用計画
- ・既存学部基本施設（存心館、清心館）改修計画
- ・キャンパス内のゆとりの空間創出（キャンパスモールの創出）
- ・学生会館の将来構想
- ・教学施設にかかわる将来構想
- ・正門周辺の再整備構想

朱雀キャンパス

- ・経営管理研究科大阪いばらきキャンパス展開後の活用計画

キャンパス整備におけるファシリティマネジメント

良好なキャンパス環境の創造に向け、継続的にキャンパス整備を進めていくには、経営戦略や管理・運営面とのすり合わせが不可欠であり、学園全体のトータルファシリティマネジメントの検討が不可欠となる。関連各部局との協力のもと、フレームワークプランを踏まえながら検討を進めることが重要であり、具体的なアクションプランに繋げていくための必要予算の算出や評価基準の設定とのすり合わせなども必要となってくる。

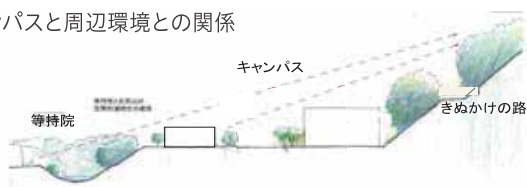


FRAMEWORK PLAN 4. キャンパスデザイン

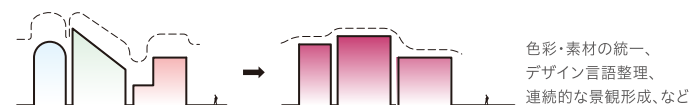
キャンパスは大学を印象づける重要な要素の一つである。キャンパスデザイン上の取り組みは、整備効果が利用者に伝わりやすく学生の満足度に直接つながるため、様々な活動と風景をデザインするよう、キャンパス毎のデザインガイドラインを設定することが有効である。衣笠キャンパスは歴史的景観の保全や調和を図ることが、歴史都市京都のキャンパスとして魅力的な環境を維持・向上する上で大切な視点となる。

考え方

■ キャンパスと周辺環境との関係



■ キャンパス内の建築・空間



◀ 景観に配慮した近年の施設整備実績



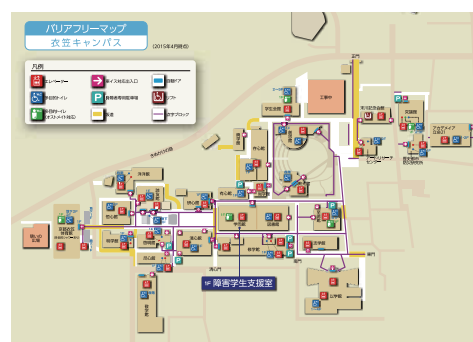
▶ 既存建物外観デザインと既存広場空間（西側広場）

FRAMEWORK PLAN 6. 安全・安心

大学は不特定多数の人が訪れる場所であり、安全・安心なキャンパスづくりとともに、誰もが使いやすく、快適なキャンパスとして利用できるよう整備することが求められる。

考え方

- ユニバーサルデザインへの配慮
- 施設の維持管理、老朽化への対応
- バリアフリーへの配慮*
- 災害・防災・防犯への配慮
- 交通への配慮



*「立命館大学障害学生支援室」作成のバリアフリーマップ

リーディングプロジェクト

面的整備課題

キャンパス計画（2011）をベースに
2つのエリアを重点検討エリアとして設定。

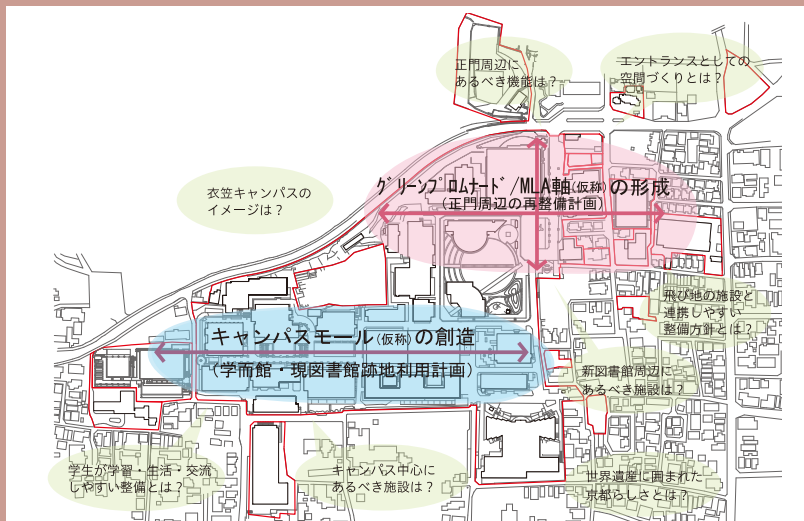
リーディングプロジェクトエリア

- ・ キャンパスモール(仮称)の創造
- ・ グリーンプロムナード/
MLA軸(仮称)の形成

実現に向けての作業

- ▶ 関連条件の整理を行う
- ▶ 専門的視点から具体的検討を進める
- ▶ 検討案を提示
- ▶ 整備の優先順位を整理・提示

※上記名称は、目指すキャンパス像を検討して行く中で決定する。MLAとは、一般に「MLA連携」としてミュージアム・ライブラリ・アーカイブの文化的情報資源などの連携を示す用語として広く普及・使用されている。リーディングプロジェクト設定においては、大学としてのミュージアム・ライブラリ・アーカイブ機能の円滑な連携について検討する目的で引用したものであり、設定エリアにMLA機能を全て集約することを検討したり、その他の機能を排除するものではない。



5. 緑地

衣笠山を背景に望む衣笠キャンパスの特徴を活かして、周辺の緑との調和や空間的な連続性を確保し、四季を感じられる潤いある緑地計画を行い、憩い・集い・賑わうキャンパスづくりを目指す。

考え方

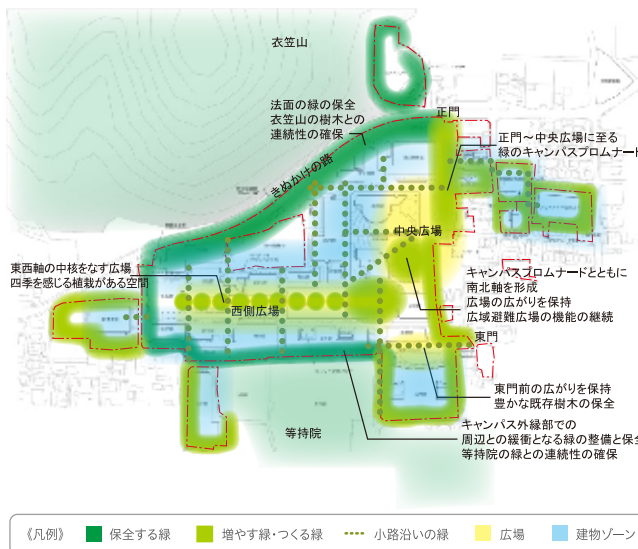
- 衣笠山への緑の連続性の確保
- 賑わいと潤いある緑地空間の提供
- 京都の植生や気候・環境に適した植栽計画
- 適切な維持管理



▲ 緑を守り育てる中央広場



▲ 緑を増やす西側広場



7. 環境配慮

持続・循環可能な地球環境の未来のため、人類・地球・自然に配慮し、既存のソフト面とハード面が連動した取り組みを更に促進させ、立命館大学の持続可能な環境配慮型キャンパス（サステナブルキャンパス）として、取り組むべき課題の整理や目指すべき方針について検討を進める。今後は、サステナブルキャンパス構築に向けた検討を深める必要がある。

考え方

- 学園全体としての環境問題への取り組みとしては「立命館地球環境委員会」主導で、省エネルギー、CO2 削減、節水、廃棄物対策、環境教育などの活動に取り組んでいる。



立命館学園環境報告書2014 vol.04

近年のキャンパス整備実績 (R2020 前半期整備)

2020 年を見据えた学園ビジョン R2020 に基づき、教育・研究・キャンパスライフの質の向上を目指したキャンパス整備を進めています。



◀ 2015年
究論館



◀ 2012年
京都衣笠体育館



◀ 2012年
第3尚友館



◀ 2015年
インターナショナル
ハウス大將軍



◀ 2015年
平井嘉一郎
記念図書館

学部・研究科と学生数

衣笠キャンパス

法学部	3,814	法学研究科	55	応用人間科学研究科	86
産業社会学部	4,037	社会学研究科	111	言語教育情報研究科	91
国際関係学部	1,402	国際関係研究科	116	先端総合学術研究科	151
文学部	5,037	文学研究科	207		
映像学部	703	映像研究科	10		

学部合計14,993 人、研究科合計827 人、衣笠キャンパス合計15,820人

朱雀キャンパス

公務研究科	47	法務研究科	121	朱雀キャンパス合計168人
-------	----	-------	-----	---------------

京都キャンパス合計 15,988 人
(2015 年 5 月 1 日現在)



(衣笠)



(朱雀)

キャンパス風景



(衣笠)

京都キャンパスの沿革

- 1961 有心館 竣工
- 1963 興学館 竣工
- 1965 経済学部、経営学部を広小路キャンパスから衣笠に移転。以学館、恒心館 竣工
- 1966 修学館、啓明館 竣工
- 1967 図書館、特別実験棟 竣工
- 1969 第一体育館 竣工
- 1970 産業社会学部を広小路キャンパスから衣笠に移転。学術館 竣工
- 1973 学生会館 竣工
- 1974 志学館、教職員会館 竣工
- 1976 諒友館 竣工
- 1977 清心館 竣工
- 1978 文学部、二部全学部を広小路キャンパスから衣笠に移転。
- 1979 学校法人本部を広小路キャンパスから衣笠に移転。至徳館、研心館 竣工
- 1981 法学部を広小路キャンパスから衣笠に移転(衣笠 1 拠点化完了)。存心館 竣工
- 1983 末川記念会館 竣工
- 1988 国際関係学部を西園寺記念館に開設。洋洋館、尚学館、オーディオビジュアルラボ 竣工
- 1989 尽心館 竣工
- 1990 明学館 竣工
- 1992 国際平和ミュージアム(アカデミア立命 21) 設立。アカデミア立命 21 竣工
- 1994 びわこ・くさつキャンパス(BKC) 開設。理工学部が BKC に拡充移転。政策科学部を開設。
- 1998 経済学部、経営学部を BKC に移転。
- 1999 アトリリサーチセンター 竣工
- 2000 国際関係学部を西園寺記念館から恒心館に移転。
- 2001 創思館 竣工
- 2002 ランゲージセンター 竣工
- 2004 敬学館 竣工
- 2006 学校法人本部を朱雀キャンパスに移転。歴史都市防災研究センター 竣工
- 2007 映像学部を開設。充光館 竣工
- 2008 育友館 竣工
- 2012 京都衣笠体育館 竣工、第3尚友館 竣工
- 2015 大阪いばらきキャンパス(OIC) 開設。
政策科学部、政策科学研究科が OIC に移転。
経営管理研究科が朱雀キャンパスから OIC に移転。
究論館 竣工、平井嘉一郎記念図書館 竣工

京都キャンパスマスタープラン 2015 Ver.1 概要版



発行日 2016 年 3 月
発行 学校法人立命館
企画・編集 京都キャンパス将来構想検討委員会、
2020 年までの京都キャンパスプラン策定部会
学校法人立命館 キャンパス計画室 / 学校法人立命館 総合企画課・管財課

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町 1 学校法人立命館 総合企画課
TEL 075-813-8130 / E-mail: keikaku@st.ritsumeikan.ac.jp

※本冊子は京都キャンパスマスタープラン 2015 Ver.1 の概要版です。詳細な内容については本編をご覧ください。

